**第15回日本糖尿病情報学会年次学術集会報告書**

平成27年8月31日

唐松薬剤師会薬局

久保　博嗣

【学会内容】

学会名　　　第15回日本糖尿病情報学会年次学術集会

　　　日時　　　　平成27年８月２９、３０日

　　　場所　　　　海運クラブ

（東京都千代田区平河町2-6-４）

【報告内容】

第１５回日本糖尿病学会年次学術集会（糖尿病医療情報を診療、研究にいかに活用するか？）にて行われた内容について報告する。

我々薬剤師は日常業務において多くの糖尿病患者に対し服薬指導はもとより食生活や運動療法を含めた生活指導を行っている。続々と新しい作用機序を有した新薬などが発売され、処方内容のバリエーションが増えそれに伴いガイドラインも刻々とバージョンアップ、検討をされている。デバイスも新しい使用方法のものが登場するなど我々は最新の情報を入手し対応していかなければならない。

その中で、東京大学医学部付属病院病態栄養治療部の窪田直人先生は「2型糖尿病の病態と薬物治療」の中で糖尿病治療薬の使用頻度の割合が以前に比べSU剤が減少し、逆にメトホルミン等のビグアナイド系やDPP4阻害薬が増えている事を報告された。また、近年日本の平均BMIの数値が右肩上がりに増えている状態にあり、空腹時の血糖を下げ体重抑制効果のあるSGLT2阻害薬の有効性について説明された。SGLT2阻害薬が処方された際には脱水、皮膚障害等の副作用やビグアナイド併用時における乳酸アシドーシス、SU剤併用時の低血糖なども想定され注意が必要であると忠告された。また、糖尿病治療において低血糖に陥った患者の心不全と脳血管性死亡の割合が非常に高くなることを指摘し、低血糖を起こさない糖尿病治療の重要性を説明された。これは「低血糖リスクを考慮した糖尿病治療」を講演された東京慈恵会医科大学葛飾医療センターの横田太持先生も指摘されている。この他にもコメディカルも加わりチームとして糖尿病治療に取り組んでいる報告やスマートフォンなど新しいシステムを活用した事例などの報告が挙がっていた。

我々薬剤師は、患者の異変にいち早く気づき、患者に適切な服用をしてもらうた

め、最新の情報を習得し臨床判断能力の向上に努めなければならない。また薬剤のスペシャリストとして医療チームに積極的に参加していく必要性を実感した。